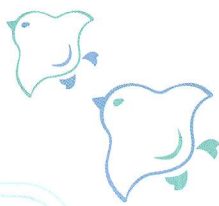


京潮の香り



ちよつと大人のモダンリビング感覚、
ビジネス以上、シティ未満のホテル達。

今年の4月、マールデニツシュを売りにする「グランマーブル」の社長から、「北浜のオフィス街に新しくできたホテルの1Fに、『シャンブルドグランマーブル』という新しいカフェを立ち上げたので、よかったです。試泊を兼ねて見て行ってください」とお手紙をいただいたので、ホテル好きの私はすぐさまテクニカルビジットへと洒落込んだ。

「ホテルブライTONシティ大阪北浜」の外観はオフィス街に溶け込むような佇まいゆえ、いわゆるホテル然としていないところに少し肩透かしをくらうが、エントランスからレセプション風景、部屋動線までもが確かにコンセプトどおりの書齋感覚。そのダークブラウン系の落ち着いたカラースキムが、RCダブルユース12500円ほどの宿泊料金からは思いもよらぬワンランク上の空気感を漂わせていた。デザイナーの深津泰彦氏曰く、ホテル側とゲスト側を相互理解した上、具現化したらこんなホテルができた

という。その書齋的デザイン空間は、プレジデントデスクやカンファタブルなベッド、パウダールームはもちろん、シャワーブースをしっかりと確保したバスエリアに顕著に表れ、閉塞感あるユニット型のバス&トイレを配した、客室数ありきで採算を取ろうとするビジネスホテルとは明らかに違いを見せていた。北浜がオフィス街からカフェやレストラン街に変遷した後の、新たな構造を予見させるホテルの出現だった。

それから半年も経たない間に、今度はいくつと「じゃらん」の元編集長、大庭氏から電話をもらった。何でも大阪は宗右衛門町に「ホテルビスタグランデ大阪」という新しい業態のホテルがオープンするとのこと、そのPRをお手伝いしているの、是非一度施設利用して、忌憚のない意見を聞かせて欲しいという用件だった。数日後に届いたインビテーションにあつた、「食いだおれ」&「お笑い文化」の街、大阪の中心ミナミ。道頓堀から徒歩1分の絶好

のロケーション。一步入れば、そこは静寂。「遊びを知りつくした大人たち」のための上質なホテル。そんな言葉を眺めながら、思わず一人ほくそ笑んだ。宗右衛門町に「上質なホテル」は想像もつかなかったからだ。レセプションは一般のオープンングより1週間早い10月の30日だった。

リドリー・スコットの映画「ブラックレイン」で、高倉健とアンディ・ガルシアがカラオケを楽しむナイトクラブの体で撮影に使われた、高松伸氏設計の「キリンプラザ大阪」も取り壊され、賑やかなひっかけ橋の風景もどことなく物悲しく映る。そこから東宗右衛門町と書かれた看板を潜り、雑然とした「ドンキホーテ」の前を通ると、あの「食道園」の真横にその新しいホテルは建てていた。ロビーはカーペットが敷いていないせいか、いささかレセプション周りのゲスト対応の音が反響するのが気になるものの、前回の「ブライTON」と同じ雰囲気は漂い匂う。「日経トレンド」の言葉借りれば、プレミアム感あふれる

「プレジデントホテル」とやららしい。

そういえば、この手のポジティブなホテル、東京では、新歌舞伎町「ベストウエスタン新宿」や麻布十番「ホテルザグランツ」、青山外苑前「東急ステイ青山プレミア」などが一足早い展開を見せている。それらは一見、京都に見る「ホテルマイステイズ」や「ホテルモントレ」のようにも思うが、狭い面積を最大限に活かした快適空間創造は似て非なるものがある。シングル部屋を廃し、76室のツインルームよりダブルルームを223室とした設計、またしっかりとしたタイル張りのシャワーブースを施したバスルーム、その向こうのベッドルームとの間仕切りを取ってガラス張りにし、居住性とコンフォート感を基調にしたシックな部屋づくりは北浜の「ブライTONシティ」に決して引けを取らない。これらのつくりが決してホテルの裏コンセプトに怒る、ラバーズカップル目当てではない表現も実にスマートで小気味いい。それはデスクにPCを置き、ビジネスメールを2〜3本



①「ホテルビスタプレミア堂島」に続き'08年11月5日にオープンした「ホテルビスタグランデ大阪」の全景。真横に「食道園」、向いには金平で有名な「明陽軒」がある。②このクラスのホテルにしてはゆったりとしたロビー前のレセプション風景。③これが冒頭紹介した北浜の「ブライTONシティ」。近くには淀屋橋でスペイン料理文化を牽引する「エルポニテ・カルボン」、ごく近くにはスポーツバーの要素を取り込んだ「エルポニテGOZO」があり、大阪人＝スパニッシュなDNAをこの界隈にも投影する。④ダブルルームのデザインは「OSAKAモダン」らしい。黒ベースに数色のストライプを配したカーベットの道頓堀に映るネオンサインらしい。+ワインレッドのアクセントカラーの壁が落ち着きを出す。ベッドは、京都なら「モントレ」でも採用するシモンズ社のもの。寝心地は確かにいい。もはやいつでもどのシーンからでも、映画の続きが観られるビデオオンデマンドは必需か。⑤この手のつくりが最近の流行りか、バスルームは居住性と広さを表現するためにブラインド付き窓で、部屋との間仕切りがつくられる。足元もしっかりとしたタイル張りです。バスとシャワーブースが独立しているのいい。

やり取りしただけでもよく分かった。流行りのビデオオンデマンドも、見逃した映画でもゆつくり1本観てみようといった気にさせられるし、寝泊まりだけの窮屈な部屋ではない「ゆとり」を与えてくれる空間であった。宗右衛門町界隈の風俗条例改正の動きもあり、少し町の属性が綺麗になりそうな気配である。堺の大聖工場設立で今やビジネス客があふれるホテル事情、円高影響でのインバウンド(訪日外国人旅行)も見込めるといった要因も手伝ってか、ここ一番の勝負に打って出た「ホテルビスタグランデ」だが、何と来春5月には京都駅八条口前にも進出を果たすというからますます興味深くなってきた。

はてさてこの手のホテル、ビジネスに取って代わってシティホテルを脅かす存在となるのかどうか、この町での今後の動向がますます気になる。そこ、それが私に与えられた使命。ゆえにしっかりと見定めておきたい。

もちろん活用目的は到って健全であることだけは宣言しておく。。。

モックン・カズロー●京都生まれの京都育ち、生家は染屋という生粋の京都人。現在の「京都CF」の根幹に携わった前編集長。現在は「京都CF」のご意見番を務める傍ら、広告企画制作から同志社大学のプロジェクト講師まで、ジャンルの垣根を越えて京都市にまつわる仕事に従事する。趣味のサーフィンより、街場の小波に乗るのが上手いともっぱらの評判である。「京都CF！」スタッフブログ「ご意見番の無責任、町案内」連載中